



NO. 361

2023. 7. 15

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会
大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センターB1F
発行責任者 長谷川 美智代
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623
<https://city-osaka-ikuseikai.or.jp>
定価 10円

大阪市手をつなぐ育成会 法人理念

障がいのある人が 安心して 心豊かに すごせるように

令和5年度(一社)全国手をつなぐ育成会連合会 通常総会が開催されました

理事長 長谷川 美智代

6月29日(木)に全国手をつなぐ育成会連合会(以下全育連)の令和5年度・定時総会が、東京新宿において、4年ぶりに対面方式で開催されました。新型コロナウイルスの影響を受け、令和2年からの3年間は、オンライン開催でしたので、今回、全国からそれぞれの育成会の代表が、一堂に会するコロナ前の形で総会が開催されたことを大変嬉しく思いました。

初めに久保会長よりご挨拶があり、「4年ぶりにこうして顔を見ながら総会が開催できて本当に嬉しい。今後の活動については、来年4月の報酬改定でどう決まるかによって変わってくるので、育成会としてどんな声を上げていくのかをみんなで考えたい。知的障がい者のことを訴えるのは、育成会しかない。しっかり国に声を届ける団体でありたい。」と話されました。いつものことながら、久保会長の力強いお言葉には、勇気づけられます。

次に、又村常務理事より、第1号議案の令和4年度の事業報告、2号議案の決算報告についての説明がありました。その中で、令和4年度に全育連で取組んだ主要事項については、次の6点を挙げられました。

(1) 対面による全国大会の開催

新型コロナウイルスの影響を最も大きく受けたのが全国大会でした。令和2年度は式典も含めて完全に開催見送り、令和3年度は、一般社団法人発足記念式典と全育連会長表彰・感謝を収録での配信のみでしたが、令和4年度は、福井県で3年ぶりの全国大会が開催され、代表者が中心となりましたが、全国から130名を超える参加がありました。

(2) ウィズコロナ対応の育成会活動の展開

新型コロナウイルスの状況が、「ウィズコロナ」へ移行していったことを踏まえ、各地の育成会活動も「対面」「オンライン」「ハイブリット」「DVDによる後日配信」を使い分けながら展開されました。また、令和4年度も引き続き「災害等活動支援基金」を活用して衛生用品の配送を行ったほか、新型コロナウイルスに関連した緊急要望活動を実施しました。

(3) 事業所協議会の正会員化

令和4年度の通常総会において56番目の正会員として、満場一致で承認されました。今後は、組織として自主性を確保しながら、正会員の一人として知的障がい者の生活向上と安心して共に生きる地域づくりを担うことが期待されます。

(4) 新たな分担金の承認

財政基盤安定のあり方プロジェクトにおいて、具体的な分担金額を算出する方法を取りまとめ、各育成会の所在地の人口規模に基づいて全育連事業の中で分担金と定めた金額を、人口規模の割合で按分することとしました。令和4年度の通常総会において承認されましたので、今年度からの適用としています。

(5) 障害者権利条約対日審査総括所見への対応

令和4年10月に発表された権利条約の総括所見においては、特に知的障がい者に関係が深い条文、第12条(法の下での平等)、第19条(地域生活)、第24条(教育)、第28条(相当な生活水準)について、全育連として「基本的な考え方」を公表しました。この内容については、「手をつなぐ」の4月号でも特集が生まれ、育成会としての考え方や活動の方向性についても示されています。

(6) 田中専務理事の退任と新たな事務局体制の構築

田中専務理事が、令和5年3月末をもって退任し、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園の理事長となりました。新たな事務局体制では、当面の間は専務